

- ・追加・変更箇所は**赤字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/08/20

改訂 2025/03/14

【Cruising Down the River】変更と注意事項

<曲を通じて>

【演奏方針】

- ・曲想を聴衆に伝えるには、演奏前の意識の切り替えが特に重要。**曲想・歌詞・リズムを意識して、1 回目の歌いだしの前にバツと切り替えて歌えることが重要（本番演奏時を意識）。**
- ・こうしたおしゃれな和音の楽曲では、自パートに専念するだけでなく全パートの構成に責任を持つぐらゐの意識を持って歌う。**リズムの縦をそろえたい。特に裏拍の入り、そして息使い。**寸分の誤差なくということではなく、気持ちを合わせて楽曲に寄り添う土台があれば、ズレも味わいに変わってくる。
- ・意外に速いテンポ、3/4 というよりも 6/8 に近いノリで。**テンポを当初よりすこし早めることとする。**そうすることで、セーヌ川を小粋におしゃれ川下りしている感じが出せる（変更前のテンポは、大自然の緩やかな河をのんびり川下りしている感じだった）。**軽快に、遅れない。一語一句歌っていると重くなるのでリズムに乗っておしゃれに。**
- ・この曲の指揮の振り方は、3/4 拍子の原則だと「1 2 3」の 3 つ振り。ただそれだとカクカクしてしまい優雅に川下りをするイメージを創れない。**1 小節（ワンツスリー）を 1 振りとした方が滑らかに奏でられると考えている。**指揮の振り方に原理原則はあるが、常に杓子定規に従うということでもない。**曲想に一番合う振り方にする、これが音楽を創るということ。**
- ・一瞬のおいしい音（音符）の音程と長さを正確にキープすることが重要。
- ・**拍の最後まできちんと伸ばす。34,58 小節などおいしい音のフレーズの終わりはきちんと伸ばす。**
- ・B1B2 の低音域は曲の支えとなる。合唱では低音域にいく程厚くしたいので、つねに f で響かせるつもりでバリバリ鳴らす。ただし押したり突いたりしない。

【曲想】

- ・臨時記号（# ♭）の音符は難しいがおしゃれな構成。**次の音に近い方に寄せて正確に響かせる。**
- ・**楽譜では転調していないが、実は途中で調が変わっている。そこでは音楽の色を変えて演奏する。**

最初～ 小粋におしゃれに滑らかに川下りしている

42～49 小節 小鳥たちが皆で愛の歌を歌い（すこし軽やかな跳ねるような感じ）

50～57 小節 そよ風がやさしく伴奏するように吹き抜けていく（HmHm の気分をそろえて）

58 小節～（57 小節の T2 のメロディを経由して、） もとの川下りの感じにもどる。

- ・歌詞の内容も踏まえると、**しっかりくつきり（ハキハキ）**というより、**ちょっとクネクネした感じで、**大げさなくらいハイソに気障っぽく、小指立てて「アフタヌーンティー」をたしなむ男の色気を醸し出して。**ただし「ワンツツスリー」のリズムが壊れると、「ニユルニユル」になってしまい、おしゃれ感がなくなる。**

- ・歌い方はあくまで縦に、しゃべりとは異なる。例えば Down など、しゃべりは横だが歌では縦に。

- ・**31,32 小節「sentimental tune」※senti は曖昧、tune は強めの発音**

- ・**強弱などのメリハリで曲を創る。**

例：23,24 小節 クレッシェンド・デクレッシェンドのメリハリでクネクネ感を醸し出す。気取って。

58 小節「Just」からの歌詞につなぐのでオーバーなくらいグワーッと盛り上げて。

- ・**69,70 小節は遅くしない(フェルマータまではオンビート)。**

<個別事項>

- ・**B2 14 小節他 低音域を響かせるために、Uh は「o」に近い「U」で歌い少し高めにとる。前小節の音から音を切らずノーブレスで。**この入りがリズム・テンポキープの要なので要注意。

- ・**T1T2B1 14,30,38,62 小節の休符は 4 分休符(14 小節など)と 2 分休符(30 小節など)の 2 通りあるので、それを意識してオンビートで決めないと、B2 の効果音が生きてこない。**

B2 の「uh」を聴いてから入ったのでは、すでにコンマ何秒か遅れてしまうので要注意。

特に、38 小節の 4 分休符の入りは、直前の 30 小節（2 分休符）の影響で遅れがち。

前の小節の最終拍は、ダラーと延ばさずピシッと切る。休符後の拍はオンビートで入る。

休符は休みではなく、B2 を聴くという「無音」を歌うつもりで。この無音がおしゃれ。

- ・**T1T2 22 小節他 他のパートの音が動いているところは、同じ長さだけきちんと延ばす。**

- ・**B1 37 小節 3 拍「ac」の音は「A」のまま下がらない。37,38 小節は全部同じ音。**

- ・**T2B1 全般 外声（T1B2）で曲の構成をイメージして、その真ん中を埋めていくというイメージ。**

特に B1 は曲に厚みを持たせるのに非常に重要なメロディ。それゆえに難しいパート。

- ・**B1 43 小節～ 難しい音程なので、メロディに 1 音下をぶつけるつもりで。**

43 小節の 1 拍目の「bG」は意外に低い感じになるので、正確に。

- ・**T2 42～50 小節 メロディ担当なので、しっかり。棒唄いではなく、スウィングしてちよいエロい感じ。**

そして、50 小節で T1 にメロディのバトンをそっと渡す感じでつなぐ。

51～56 小節 同じ音なので、ふらついたり探り探りしたりしないように安定して。

- ・T1 50 小節～ T2 の流れを引き継ぎつつ、伴奏の刻みも意識して。
- ・B1B2 51～56 小節 Hm Hm は、音量を出すため口は少し開いてもよいが、母音は出さない。
- ・T2B1B2 53-57 小節 曲想を変えるようしっかりと刻む。
- ・T2 57 小節の音程の動きがすごく重要。正しくきれいな響きで。しっかりとした音量で主張して。
- ・B1B2 70 小節「F」を全開で響かせることで 71 小節からのエンディングにつながっていく
- ・T2 70 小節「 $\sharp A$ 」は難しいがおしゃれなので、正確に出せるよう体にしみこませて。「 $\sharp A$ 」は合格圏内に到達。もう少し高目が取れば、「ゾクッ」とする和音が完成する。単独だと難しいが、B1 の「F」との響きを感じれば取りやすくなる。
- ・T2 71 小節 T2 「 $\sharp A$ 」は前の小節と同じ音だが難しい。
次の小節で「 $\flat A$ 」とともに戻るのがさらに難しい。